



渋川学区の健康かるて（令和6年度版）

【令和6年12月作成】

草津市人とくらしのサポートセンター 地区担当保健師

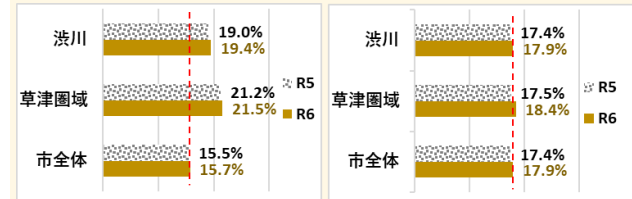
1.人口構成(R6.4.30) ※市と比較して区分割合が高い項目に赤字着色

合計(年少/生産/高齢)						
年齢区分	0～14歳		15～64歳		65歳以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
志津	2,485	17.5%	9,265	65.1%	2,486	17.5%
志津南	1,333	20.0%	3,840	57.5%	1,502	22.5%
草津	1,589	13.3%	7,583	63.7%	2,738	23.0%
大谷	1,513	12.7%	8,050	67.4%	2,388	20.0%
矢倉	1,177	12.2%	6,174	64.1%	2,288	23.7%
渋川	1,317	13.7%	6,539	67.8%	1,784	18.5%
老上西	1,461	16.8%	5,361	61.8%	1,851	21.3%
老上	2,475	19.7%	7,998	63.8%	2,071	16.5%
玉川	1,305	10.6%	8,644	70.2%	2,360	19.2%
南笠東	747	9.7%	5,104	66.5%	1,821	23.7%
山田	937	12.1%	4,439	57.1%	2,396	30.8%
笠縫	1,570	14.0%	6,296	56.0%	3,371	30.0%
笠縫東	1,624	14.9%	6,449	59.3%	2,806	25.8%
常盤	648	13.3%	2,651	54.4%	1,571	32.3%
草津市	20,181	14.4%	88,393	63.1%	31,433	22.5%

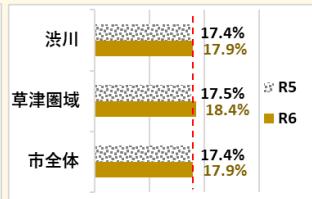
【参考:65歳以上人口割合】 渋川 18.4% / 草津市 22.4% (R5.4.30)

4.高齢者の状況 (※③は、40～64歳の第2号被保険者も含む)

①単身高齢者の割合(R6.4)



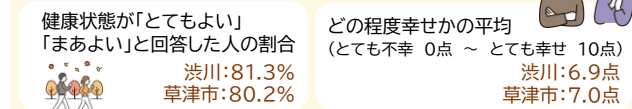
②介護認定率(R6.4)



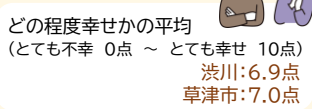
③介護が必要となった原因で最も多い疾患(R1～R2新規申請者)

【要支援認定となった人】	【要介護認定となった人】
骨折	骨折

④主観的健康観



⑤主観的幸福感

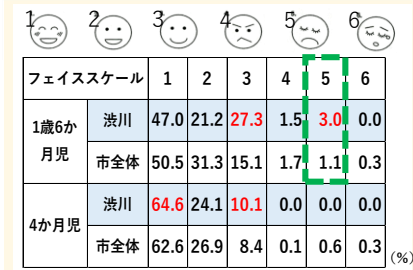


6.地域資源(地区組織活動・社会資源等)

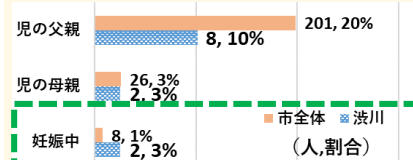
医療機関 医科:7か所・歯科:4か所	スーパー:2か所・コンビニ:2か所	地域サロン:10か所	健康推進員 8人
薬局:4か所・ドラッグストア:2か所	子育てサークル・拠点施設:1か所	町内会 17個	

2.妊娠・出産・子育て(乳幼児健診問診結果)

①育児に対する今の気持ちに近いフェイススケールの割合(R5年度)



②喫煙状況(R5年度:4か月児健診時)



③「育てにくさを感じているか」の割合(R5年度)

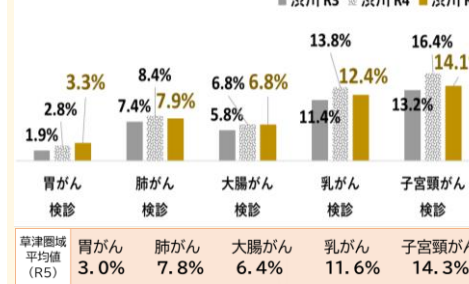


5.地域の声

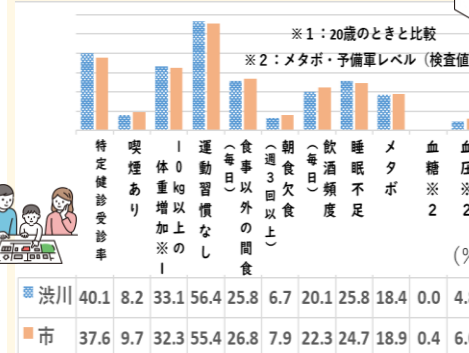
「高齢化がかなり進んでいる地域もある。居場所があったらいいな。」
「駅には比較的近いが、買い物するにも、何かするにも少し距離がある。」
「子育てサロンに来てくれる子どもが低年齢化してきたので、イベントの内容は考えている。」

3.からだの健康・生活習慣

①市が実施しているがん検診の受診率推移(R3～5年度)



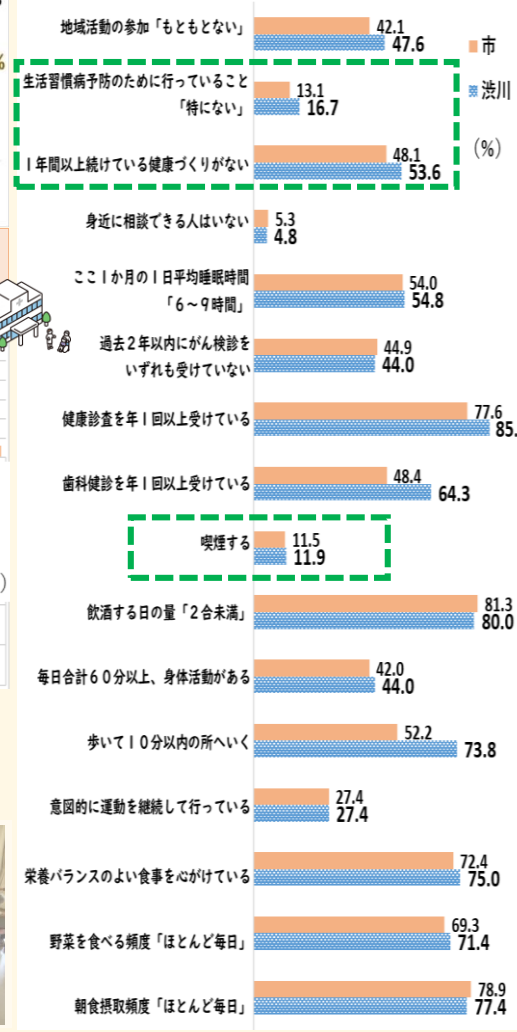
②特定健診受診率・問診・検査結果(R5年度)



～地域の取組・活動の様子～



④生活習慣 健康に関するアンケート調査結果:対象18～74歳(R4年度)



<地域の目指す1年後の姿(目標)> 渋川学区の住民は、誰もが継続した健康づくり(食生活の見直しや運動習慣の確立等)を行うことができる！

<地域の特性と健康課題>

- 高齢化率は18.5%と草津市内で3番目に低いですが、町内によっては高齢化が進んでいる地域があります。また単身高齢者の割合は市平均より高いです。
- 生活習慣は、生活習慣病の予防や継続的な健康づくりに取り組んでいる割合が市平均よりも低いです。市平均よりけん診受診率は高く、身体活動の取組は多い地域です。
- 妊娠中の喫煙状況や1歳6か月児のフェイススケール5の割合が高いことから、子育てをしている保護者が悩みや困りごとを抱え込まないような地域づくりの取組が必要です。

<健康課題の解決に向けた取組方針・活動状況>

- 学区の関係者が集まる会議では、高齢者の居場所づくりや健康・生きがいの確保に繋がるよう、地域情報を掲載した地域資源マップを作成し配布しました。
- アル・プラザ草津と連携した健康チェックを行い、健康相談から食生活(バランスの良い食事や減塩)について周知を行っており、今後も引き続き住民の声を聞く場をもちながら、健康づくりを推進する必要があります。
- 子育て世帯の声や思いを聞き取り、地域と連携しながら、実態や課題を把握していく必要があります。